

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームとしての役割を理解、確認ができるよう、事業所内に理念を提示し、意識事づけをするようにしている。	法人の運営指針に基づきホーム独自の理念が作られ、来訪者にもわかりやすくホールに大きく掲示されている。職員は話し合いの中で理念を深めながら具体的なケアに努めている。理念にそぐわない言動が職員に見られた時には、管理者が助言、面談等をするようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	本年は、地域の行事も中止され、残念ながら交流が出来ずにいる。	法人として三沢区に区費を納め、川岸地区行事のお知らせもある。本年度は新型コロナウイルスによる感染症対策のために行っていないが、通常であれば、地域のボランティアによる大正琴・ハーモニカ演奏・マジックショーなどが行われ、区の文化祭には利用者の作品が展示がされている。また、中学生の職場体験も受け入れ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や相談の際にできる限りの認知症ケアの経験を提供している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議が中止になっており、開催出来ていないが、資料を送付し意見を聞けるようにしている。	3ヶ月毎に開催している。メンバーは区長、民生委員、市介護福祉課職員、介護相談員、協力病院看護師長、法人代表、ホーム職員などで構成されている。利用者の様子や活動状況を報告し、活発な意見交換がなされている。出された意見や情報は職員会議等で共有し運営に反映している。本年度は新型コロナウイルスによる感染症対策のため会議は中止となっているが、資料を送付し意見をお聞きしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市高齢福祉課・社会福祉課と必要に応じ連絡・連携をとっている	介護認定更新時の面接は職員が対応し、市職員との連携も取れている。市窓口からホームの空き情報の問い合わせもあり、連絡や相談もしている。広域で開催されるケアマネジャー連絡会に出席し情報交換もしている。通常であれば、月2回、介護相談員2名が来訪し利用者として連絡ノートに記入し口頭で報告があるが、コロナ禍ということもあり介護相談員からのビデオメッセージが届き、利用者、職員で視聴したという。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で意識を持って拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束になりうる事柄はその都度家族へ説明し承を得ている。	玄関は開錠されているが、ホール入口は安全のため施錠されている。外の花を見たり、ふきのとうやふきを取りに行きたい方には、職員と一緒に散歩に出掛けている。居室でセンサー使用者が数名おり家族の了解を得ている。毎月法人として身体拘束委員会が開かれ、その会議の内容がホーム職員に伝えられ、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

グループホーム高尾

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	委員会で虐待などはなんであるか理解し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の相談がある時、個々の必要性など職員同士で検討している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時において重要事項説明書及び利用者契約書をもとにご家族に説明をする、またご家族から質問があれば随時話をし納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会を制限しているため、定期的な電話連絡の中で意見や要望を直接話しており、すぐに対応し早めの解決を心がけている	半数の利用者は意見や要望を伝えることができる。言葉で表出できない時は表情や態度で推し量りながら思いを受け止めている。家族の来訪は週1回から半年に1回と様々だが、その日の担当者が日頃の様子を伝え意見や要望を伺うようにしている。現状のコロナ禍で面会は窓越しで行い、定期的な電話連絡も行い、意見や要望を聞き利用者や話をする機会も作っている。最近オンライン面会もできるようになり家族へも知らせている。「高尾だより」を発行しホームでの様子がわかると家族に喜ばれている。ホームとして「毎日見ようノート」があり、利用者や家族からの意見・要望を記録し職員間で情報を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う職員会議、その他雑談の中等で機会を設けており、意見や提案に対してはすぐに反映している	毎月1～2回、午後1時半から3時に職員会議を行っている。法人や委員会からの連絡があり、課題解決に向けて活発に意見が出されている。申し送りでも出された提案は先ずやってみて検討を加え次へ向けて話し合いをしている。また、管理者が面談を行い、職員の意見を聞く機会もあり、法人の施設間で異動も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や特技を理解し業務配置を行い、やりがいのある職場環境を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前は内部研修は定期的に行っており研修報告していましたがコロナで中止になっています。		

グループホーム高尾

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会が開催できないため、他施設等との交流が難しい状態である		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族に生活歴や趣味など事前に聞いておき、コミュニケーションをとりながら関係づくりに努めている。入所後も本人の意向を聞きながら安心して生活ができるよう関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や来所などで相談に来られた時から何に困っていて何を求めているのか、家族の立場を理解し、私たちがどのような対応ができるかなど話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容により、居宅のケアマネ等と連携しながら柔軟な対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作品作り等入所者様からの知識も取り入れ一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を制限しているので、オンライン面会等を活用し、家族との会話を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	オンライン面会の活用をしている。	友人の来訪があり、居室で話をしている。その際の飲食の持ち込みは自由にし気楽に会いに来ていただけるように支援している。家族の方に話し、大正琴の方が衣装を揃え大勢でみえ利用者に喜ばれたという。コロナ感染症の影響で交流や外出が制限されているが、早く季節に合わせ諏訪湖一周ドライブなどに出かけ、馴染みの懐かしい場所をめぐりたいと新型コロナウイルス感染の収束を願っている。オンライン面会の準備ができ、家族にお知らせし活用が始まっている。	

グループホーム高尾

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話好きな利用者様の席を近くにし、お互い支えあい関わりあえる関係を築いている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も、次の施設を訪問したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で把握に努めている、意思疎通が困難な場合は様子を見たりご家族にうかがったりしている	殆どの方が意思疎通ができ、複数の選択肢を提案し選んでもらうようにしている。洋服、お茶、食事メニュー等職員が押し付けるのではなく利用者本位の支援に努めている。料理本などを見てこれがいい、これを作って欲しいとリクエストもあるという。入浴時や居室等で利用者の思いを聴くようにしており情報は記録を通して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後に家族や利用者又、ケアマネ等から聞き取り記録している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のかかわりの中で記録し申し送り等で把握している。一人ひとりにあった個別ケアや対応を職員で話し合い情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の意向をうかがい、担当者会議で話し合いを持ち介護計画を立てている。変化があれば随時意見を出し合い対応している	職員は利用者1~2名を担当しており、利用者の生活全般、衣替え、月の様子を把握しモニタリングまで担当している。職員会議でカンファレンスを行い3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。計画作成担当者が家族の窓口となり意見を伺い作成している。状況に変化が見られた時には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は『排泄チェック表』『利用者処置表』『バイタルチェック表』『食事摂取量』『介護記録ファイル』『業務日誌』に記録しておりそれをもとに介護計画見直しなど行っている		

グループホーム高尾

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望により、外来受診、など状況に合わせて行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は近所の人と協力していたが、今年はコロナで難しい面がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは毎週の訪問診療のほか相談や報告を行っており、緊急時は24時間連絡が取れ対応が出来る体制になっている。又家族への報告も行っている。	利用前のかかりつけ医を継続されている方が若干名おり、家族が通院介助を行っている。他の利用者はホーム協力医による月2回の訪問診療を受けている。協力医は3名おり、それぞれ利用者を担当している。協力医の訪問看護ステーションから看護師が週1回木曜日に来訪し健康チェックを受け、何かあれば主治医との連携もスムーズに行くよう体制が整備されている。薬については薬局で届けてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況に応じ主治医への相談医療機関への受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が同行し医師や看護師と情報を交わし入院中は見舞いや家族との連絡を密にしている、また早い段階で退院ができるよう情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の段階で『終末期ケアの指針』の用紙の説明をし意向を聞き記入して頂いている、状態が変わる時に意向を聞きなおしている	入居時、「終末期ケアの指針」について説明を行い意向を確認している。本人、家族の希望に沿った支援ができるよう協力医と連携を深めている。状態に変化が見られた時は主治医が家族に説明し再確認している。看取りの経験が8件あり、利用者が慣れ親しんだホームで最期を迎えることのできるよう環境を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や初期対応はマニュアル化し観覧できるようにしている、緊急の場合には、医師、管理者、看護師にすぐに連絡できる体制になっている		

グループホーム高尾

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	色々な状況に応じた避難訓練を年数回行い、防災の意識付けに非常食による食事を提供したりしている。震災を教訓に非常食、や水の確保をしている	年2回避難訓練を実施している。消防署から職員が来訪し指導を受けたりもしている。火災、地震、土砂災害、夜間想定などホームの裏側が山であり避難経路には急坂道があるなど防災上の課題もあり、防災委員会を中心に計画書や避難経路図を作り上げている。利用者は訓練時に玄関先、駐車場に避難している。水、ご飯、レトルト食品等、3日分の備蓄がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄の問題では、利用者様の中には汚れた下着など丸めて隠している場合がある為そっと洗濯しタンスに戻しておくなど、個々に合わせた対応を心掛けている	名前が苗字に「さん」付けでお呼びしている。居室に入る時はノックをし声がけを行い、高齢者に尊厳の念を持ちプライバシーを損ねないケアに努めている。声がけには注意し、後方からではなく顔を見て声を掛け驚かれないよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に違う為、表出の困難な方には時間をとって会話を持ったり、言葉かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入床時間、日中での生活は、ゆっくりお茶を飲んで過ごしたい方やレクで楽しみたい方など様々で一人ひとりのペースに合わせ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問でカットをしている。洋服はほとんど自己決定できるよう環境作りをしてい		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じメニューで必要以上に刻まない工夫や、利用者様の意向を聞きおやつや『お楽しみ献立』で希望に沿った物を用意している、また下膳やテーブル拭き等手伝ってくれる。	殆どの方が普通食を箸を使い自力で摂取されている。あら刻みの方が数名、見守りの方もいる。献立はその日の担当職員が食材を見て利用者の希望も聞き入れ立てている。利用者は皮むき、味見、お膳運び、食器洗い、食器拭き等、できるお手伝いを積極的にしている。誕生日にはケーキを作り、行事の時にはバーベキュー、お節句にはお稲荷さんや天ぷら、お花見弁当、鰻弁当、お彼岸はおはぎ等、新型コロナウイルスによる感染症対策のため外食ができない今、「お楽しみ献立」が利用者には喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人にあった量を把握し、対応している、水分はお茶やコーヒーが一日を通いいつでも飲める環境である、また飲み込みの悪い方にはとろみを付け一日の量を記録している		

グループホーム高尾

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと、入れ歯を使用している方には夕食後容器に入れ次の朝まで洗浄する、歯磨きやうがいがかまかない方には、職員がウエットシートを用い口腔ケアを行っている。磨きなおしの場合により行う。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し定時のトイレ誘導や声かけを行っている。	自立の方が半数、一部介助の方が半数で、リハビリパンツやパットを使用している。排泄表でパターンを把握し声かけや誘導を行っている。夜間ポータブルトイレ使用者が若干名いるがトイレでの排泄ができるよう支援に取り組んでいる。自立の方のパット交換はきめ細かく対応している。トイレの場所はわかり易く大きくトイレと書かれトイレマークの表示がある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の状態を把握している、牛乳や果物、内服薬をその時の状態に応じて対応している、またホール内の運動も個々に合わせて行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分良く入れる工夫をし、入浴ができるようにしている、また順番等も希望に応じている	殆どの方が一部介助で週2回入浴している。一番風呂や長く入浴したい方には希望に沿えるよう支援している。浴槽にまたいで入れない方が若干名おり、入浴のみ、法人のデイサービスに週2回通っている。浴槽などの修理も検討しているが難しい状況となっている。入浴を拒む方には時間をおき、また、声かけを工夫し入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬場は希望に応じ、電気敷布を使用している、居室には自由に出入りができ、いつでも休めるような環境になっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様のファイルに処方内容が明記されており、症状の変化時は医師、看護師に確認するよう周知している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベントを行うなど一年を通し時節を楽しんでいる			

グループホーム高尾

自己	外部	項目	外部評価(評価機関記入)	
			自己評価(事業所記入) 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎イベントを行っているが、今年は、コロナの影響で思うように出来ずにいる。	外出時、自立歩行の方は若干名で、車椅子使用の方が半数、あとの方は手引き歩行で移動している。日常的な外出として同じ法人運営の隣にあるケアハウスでのイベントに参加している。ホームの年間イベント表が作られ担当者が企画から進行まで行っている。ドライブは季節ごとに行われ、お花見、いちご狩り、ぶどう狩り、諏訪湖一周ドライブ等に出かけていたが新型コロナウイルス禍で外出が難しい状況が続いている。玄関前のベンチでお茶会をしたり、バーベキュー、花火等、外気にふれながら庭でできるイベントが現在実施されている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持参はしていない。欲しい物があれば買い物の代行も行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり取り次いだりしている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体に広く明るい空間を心がけている、ホールのテーブルには季節の花をさし季節感と話題性を持ち利用者様が心地よく過ごせるよう工夫している、ホールの壁はレクの一環として張り絵や飾り物を行い季節感を出している	玄関フロアには利用者と職員で作った大きな犬のジグソーパズル作品が飾られ、ゆり輪が生けられ微笑ましく、季節を感じる事ができた。ホール兼食堂を挟んで居室が並び、その廊下は37mと表示がされ歩行運動の場ともなっている。ホールは明るく日当たりも良く、窓越しに花を楽しむことができ、花紙で作った藤の花が高い天井から吊るされている。居ながらにして蝉や鳥の声が聞こえ、利用者同士話をしたり、新聞を読まれたりと落ち着いた心地良い空間となっている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブル席やソファ席があり、思い思いの生活ができる	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々により、テレビや家具の持ち込みや壁飾りなど居心地の良い生活ができるよう工夫している	居室には押入れ、洗面台、ベット、壁用フック金具が備え付けられている。テレビや机、椅子等、馴染みの物が持ち込まれ、利用者それぞれの好みに合わせて置かれている。机には花、壁には作品が飾られ、思い思いの生活を送っていることが窺え、居心地の良さが感じられた。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様各人の目の高さに合わせ、ドアに目印して一人でも行きたい所に行ける工夫をしている。	